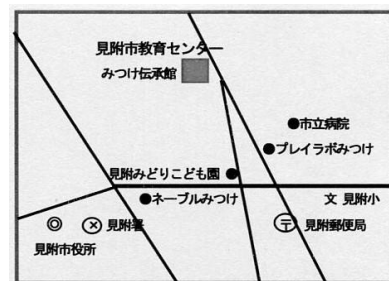


見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrissen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和7年7月22日 NO.4

夏の花『タチアオイ』

片桐町

「目の前の1メートルぐらいの地面だけを見て走り続ける」

教育センター 嘱託指導主事 外山 孝



人気アニメ「アンパンマン」。このアンパンマンを生み出したのは漫画家の「やなせたかし」さんです。今、NHKの朝の連続テレビ小説「あんぱん」では、やなせたかしさんご夫婦をモデルにした物語が描かれています。

やなせたかしさんは30代中頃から漫画家を本格的に始めるものの当初はヒット作が生まれず、それでも漫画を描き続けたそうです。アンパンマンが生まれたのはやなせさんが50歳の頃。70歳になる直前にアニメ化され、大ヒット。諦めないで一つのことに思いを込めチャレンジし続けたやなせさん。なにやら見附市が取り組みを進めている「みつけ Job チャレ教育」（アントレプレナーシップ教育）と重なる部分があります。

「みつけ Job チャレ教育」は、子どもたちが常に「夢」や「希望」をもち、チャレンジし続ける。一人一人が発想力や想像力を磨きながら「夢や課題の解決に向かってチャレンジする」

「他者と協働しながら解決策を探求する知識・能力・態度を身に付ける」などを大切にしています。やなせたかしさんが歩まれた道のりと重なる部分があります。

やなせたかしさんは次のような言葉を残しています。

「ぼくのように、あまり才能に恵まれていない者はゆっくり走ればいい。

『あきらめるな』と自分を叱咤しながら目の前の1メートルぐらいの地面だけを見て走り続けるやり方です」（やなせたかし「明日をひらく言葉」より）



遠い未来やずっと先の夢は大切です。そして、そのための目の前の一歩先、1メートルを見続けることも大切。子どもたちが「チャレンジを続けたい」「学び続けたい」そんな楽しくてワクワクする、魅力ある活動を学校や企業の大人が子どもたちに提供し続けたいですね。

困っている人、お腹を空かせた人に会うと自分の顔をちぎって差し出すアンパンマン。アンパンマンには温かさもあります。みんなを笑顔にする優しさと強さ。みんなに愛されるアンパンマンの秘密かもしれません。

「愛」と「勇気」が友達のアンパンマン。さらに、「夢」と「希望」「チャレンジする心」を持ち続ける見附の子どもたち。そんな見附の子どもたちを皆さんで応援しましょう。

やなせたかしさんは、編集長を務めた雑誌「詩とメルヘン」で見附の詩人の矢沢幸を「唇に真珠をふくむ詩人」と紹介しています。そのことが、まちの駅ネーブルみつけの矢沢幸コーナーに展示されています。やなせたかしさんは見附市や矢沢幸ともつながりのある漫画家ですね。皆さん、「ほいたらね」

巻頭写真に寄せて ―「初夏を感じる花、タチアオイ」―

◇地元紙の「フォトのかご」に、タチアオイ(漆山町)の写真が載っていた。この花が好きで見に行ったら、枯れかかっていた。夏の盛りに咲く大輪の向日葵もいいが、初夏を告げるタチアオイが、何とも言えなく好きである。花は2m超の背丈の茎に、直径10cm程の花が下から順に咲く。この花は種類が多く、花色は白や赤、ピンク、黒色等の他、混色もある。花びらは一重、八重、その中間の半八重もあり、近年はバラのように豪華なものも見かける。漆山町に出かけた日は猛暑日だった。職場に戻り、一息入れて思い付いた。通勤の道沿いの畑に、咲いている花がタチアオイではなかったか。

◇そして、再度出かけて撮ったものが、巻頭写真である。群生をしていて、圧巻だった。ピンクが一番美しく見えたが、白や赤の他、黄色や紫等、多くの花が咲いていた。この花は、一番上の花が咲く頃に梅雨が明けると言われることから、別名「梅雨葵(ツユアオイ)」とも呼ばれている。近年は気候変動による温暖化で、5月頃より夏日が多く、季節感が薄れ梅雨の時期もはっきりしない。春夏秋冬、四季のある日常が戻って欲しい。花で季節を感じられる生活が大好きである。



コラム すべての子どもに『人間として輝き』を

◇私の師がく訪問は、7月11日(金)の今町小が一学期最終だった。この日も猛暑で10時前に学校に行ったが、一年生の育てているアサガオが閉じかけていた。花壇には向日葵とホウセンカが強い日差しの下、元気に成長していた。理科専科講師のM先生に感謝である。どこの学校に伺っても、まずは花壇や畑の様子を見て校舎に入る。次に教務室で日程や動静を確認する。担任が不在の学級が気になる。師がくの参観授業以外で、話し合いまでに空き時間があれば、その学級を覗いてみる。中学校は、子どもの欠席や遅刻を確認し、様子を養護教諭に伺ったりする。師がくは授業改善、指導力向上が目的である。見附市の子



どもたちが、「学校が楽しい。友だちと一緒に学ぶことが楽しいと感じられる学校生活を送って欲しい」との願いからであるが、見附市も不登校の人数が減らない現実がある。◇さて、人間関係づくりが上手くでき、わかる・できるが実感できる授業が行えれば、不登校はなくなると考えてしまいがちであるが、学校に行けない、教室に入れない原因や理由は、一人一人違っているし、その子どもを理解するには、全教職員の連携、そして、保護者や関係機関との情報共有の必要があり、多くの時間を要するのだと、最近、右の書籍から学んだ。

◇書籍とは、心と学びの相談・支援センターが、発足30年を記念し出版した『寄り添って30年 人間としての輝きを求め』である。先般、地方紙に、センターの活動やこの本が紹介されていた。また先月、同センターから、このパンフレットや本が学校に届き、手にした人もいだろう。



◇4時から夢塾で、昨年一昨年と2回、センターの吉沢嘉一郎代表から指導を頂いたが、同書には講座でお話頂いた事例も載っている。この本は悩み苦しむ子どもたち、その保護者に寄り添って支援を行ってきた記録集であると同時に、現場の教師、教育行政に携わる者への支援書でもある。人間の輝きには、育てられる土壌が必要であり、心が交流する家庭や学校、学級、仲間等があり、そこに集う人々との優しい思いやりのある活動や生活が人間としての輝きを生み、育てることを、本書から学んで欲しいものだ。(こ)

4時から夢塾 「科学の本質」を取り入れた「理科授業の改善」

第4回「4時から夢塾」を5月29日(木)に、県立教育センター指導主事の長谷一弘先生から、「日本と世界の『科学について』の調査結果の分析を通じた授業改善」について、ご指導を頂いた。

1. TIMSS(国際数学・理科教育動向調査)での日本の結果

- ・理科の成績の経年変化…教師は多くの工夫をして力をつけている。 長谷 一弘 先生

2. 全国学力学習状況調査(質問紙調査の結果)…新潟県の児童生徒

- ・理科の勉強は好きか。社会に出た時に役立つと思うかは、共に肯定的な回答が多い。

3. 「科学の本質」の概念を取り入れ、理科授業に進んで取り組む児童生徒を増やす

(1)「科学の本質(NOS)」の理科教育…自然現象への興味を引き出し、探究心を育むことに重点。→実験や観察を通し、子どもたちが自分で「どうしてこうなるんだろう」と疑問をもち、その答えを見つける力を伸ばす工夫がされている。

(2) レーダーマン(Lean M Lederman)らによる「NOSの7つの構成概念」を日米の大学生、日本の中学生で調査した。(省略) ここでは法則と理論のみ触れる。

○科学法則と科学理論…中学生と大学生で有意差あり、効果量大きい。

→科学法則と科学理論を授業に取り入れることが、最も効果的である。

○科学の法則…自然界で観察された現象を、簡潔に表現したもの

- ・ニュートンの運動の法則が代表例…具体的で、いつでも成立する。

○科学の理論…「なぜ、それが起こるのか」を探るもの

- ・進化論やビッグバン理論が、膨大なデータを基にした「全体像」

→「法則」が現象の事実を表し、「理論」がその背後にある理由を表す。

- ・惑星と信じられていた冥王星が、観測機材の性能の進化で準惑星に。

- ・遺伝情報を伝える物質はタンパク質ではなく、DNAが鍵と認識される。

(3)具体的にどんな授業展開が考えられるか →「PadletTA」に入力

- ・レスンプランを作成…生成AIを利用することができる。

- ・生成AIに任せるのではなく、児童生徒の実態に合わせ変えていく。

4. 次期学習指導要領の検討(中教審 教育課程部会…R7.5.12資料)

- ・AIに操られるのではなく、AIを使役する資質能力が重要である。

- ・児童生徒だけでなく、教師もAIに操られないようにしていかなければならない。



＜参加者の声＞ ・科学の本質というところまで考えずに、日々授業に追われている。

そして科学の本質は難しかったが、これからは意識して授業を頑張ろうと思った。

- ・科学事象が生活の身近なものと関係していることに気付かせたり、子どもの疑問を大切にしたりして、子どもたちが楽しく学べるように、授業を改善していきたい。
- ・教材研究をして授業を行っているが、もっと科学の本質に迫る取り組みをしたい。
- ・日本の子どもは「成績は良いのに、理科学習の必要性を感じてない」事実に対して、「楽しくて、社会で役立つ学習なんだ」を実感させる授業をしていかなければと思った。
- ・“AIに操られるのではなく、AIを使役する”ことを忘れずにいたいと思う。

4時から夢塾 「子どもの心の健康について」

第5回は6月12日(木)に、キャッツこどもクリニック院長の磯部賢論先生から上述の演題でご指導を頂いた。具体的には、「スマホを簡単に渡さないで!」「10の大切なこと」等の内容について、実に分かり易く教えて頂いた。簡単に説明をする。

【保護者へのメッセージ】

磯部 賢論 先生

「少しでも肩の力をぬいて、リラックスして子育てを。子育ては楽しい!」

- ダメな子はいない。子をダメにする親はいる。→あなたが泣いたり悲しめば、その何倍も悲しいし、あなたが喜べば、親はその何十倍も嬉しいもの…親とはそういうもの。
- 子育てのコツはない → 上手くいかないことばかり、上手くいなくて当たり前。

◎スマホを簡単に渡さないで! (渡す人はダメな親の典型)

→まだ、安全な世の中になるまでは。まだ、安心して操作できるまでは。

○読み書きソロバンが先。スマホ依存の予防と治療 (ゲーム障害: ゲーム依存症)

- ・ゲーム依存が深まるほど、孤立感や社会の隔絶間が上昇する。
- ・依存の本質は苦痛の回避。
- ・依存症: 生きるのが辛い。人生がままならない。居場所がない。
- ・予防がより大切: 親も子どもの前でしない。ルール作り。プレイ時間、保管場所、課金。学校生活との両立等。
- ・治療(難しい): ゲーム以外の活動。取り上げない。医療機関へ相談等。

◎「10の大切なこと」

- (1) 家庭でのお願い: ①親が見本。②親が相談相手になること。
- (2) HSC(繊細さん): 感覚を丁度良くキャッチすることが苦手。
- (3) 場面緘黙: 言語発達が弱くコミュニケーションが苦手。対策は親が人前で話す。
- (4) リフレーミング: 心理用語で、物事を別の見方をして別解釈する場合のこと。
- (5) ダブルバインド(二重拘束): どちらに転んでも自信を喪失するもの。
→子どもは混乱し、自己肯定感が下がる。「どうせ」の生活は自尊心の低下を招く。
- (6) 「読み聞かせ」が非常に大切: 語彙力と読解力と経験値が必要。
- (7) 不登校は家庭の一大事: 「不登校は、その特性とその学校が合わないだけ」
- (8) 援助希求能力: SOSを発信できるか→「生きているだけでいい」という絶対的補償。
- (9) 真の成長とは: ちょっと勇気を出してやってみた(行動する)→そこそこできた!
- (10) 真の幸せとは: 将来に対して希望がもてる。支えられていると感ずることが出来る。

- <参加者の声>**・話を聞いてくれる人がいる。信頼できる大人がいることが、困り感を抱えている子どもには重要を再確認した。子どもの話を無条件で聞くを心掛けたい。
- ・学級に不登校の子がいるので、「今どんな気持ちでいるのかな」と話を聞いて考えた。寄り添い方や保護者に「どんな声をかけるのがいいのか」を考える機会になった。
 - ・子どものメンツを潰さない。子育てとは情緒を育てること等、普段、心していきたい。
 - ・「スマホを簡単に渡す人はダメな親の典型」の話に納得。気持ちをつなげていきたい。
 - ・家庭を考え反省する機会になった。「お母さんは家の中の太陽…」まったくなれていないことにドキッとし、食卓では誰かがスマホを持っている現状に危機感を感じた。
 - ・子どもの話をよく聞き、受け止めて「SOSが出せる環境を作っていきたい」と思った。



4時から夢塾

「運動感覚の獲得」実技研修

第6回は6月26日(木)に、見附小学校を会場にして、新潟県立大学人間生活学部の伊藤巨志教授から、楽しんで運動感覚を身に付ける講座「運動感覚の獲得Ⅲ（走力編）」のご指導を頂いた。

1 成長と運動(運動感覚の獲得)

◆運動能力

- ①運動体力、エネルギー生産性 筋力・持続力・瞬発力…青年期
- ②運動コントロール能力：調整力…幼児・児童期
- ③知覚(視覚、聴覚、筋運動感覚)予測・意志決定・記憶 ⇄ 運動協応
- ④多様な運動 ⇒神経回路の形成 ⇒運動神経のいい子

○子どもは運動感覚が未熟(神経回路は都内の交通網のように複雑)

- ・路線により ⇒安い、早い、遠回り等、いろんなルートあり。
- ・ストレッチをやり、自分の体には正しいのは何だろうかを知る。
- ・ゆっくりやる。自分の動きを鏡で見る。⇒わかってくる。
- ・ラジオ体操で、手が肩の高さになっているか。⇒身体を知る。

2 折り紙で身体の使用方を知る(小中2種類の折り紙で鳥を折る)

○二人組になり、折り紙の鳥を一人が投げ、もう一人が拾う運動。

- ・小さい折り紙ほど、拾うのが難しい体験する。

3 子どもの走力について学ぶ

○疾走速度 12歳頃まではほぼ直線的に増大

- ・男子は13歳から17・18歳まで増大 女子は13・14歳頃ピーク

○歩幅は、疾走速度と同傾向

○歩幅/身長は、幼児期に急速に増大する。(小学校入学迄は伸びる)

- ・急速な走動作の習熟
- ・基本的な走運動形態が獲得され、顕著な変容がない。

○歩数は、男子は15～17歳にかけ増大。女子は明確な経年的変化は見られない。

○疾走能力の発達…1～12歳までは男女とも歩幅の加齢にともなう増大をする。

◆実際に走力を付けるための運動を行う

- ・1秒間に4回の歩数で走る。・腕ふりをしながら、自分の歩幅での歩き等。



伊藤 巨志 先生



<参加者の声>

- ・運動感覚というのは、「体が覚える」ということだと学んだ。
- ・子どもたちの体力、走力向上のためには、まずは運動の楽しさが重要だと思った。
- ・気持ちよく体を動かし、楽しかった。子どもたちとやってみたい活動が見つかった。
- ・バランス感覚と歩幅の話が面白かった。帰って自分の子ども(3歳)にもやらせたい。
- ・走る運動の基礎となる動きを知ることができた。一步踏み出す際のバランスや筋力、リズム感。それを実現につなげるための速さトレーニング等、様々なことを学べた。
- ・自分の体の動きを知る面白さと難しさが分かった。「自分が子どもの時に教わっていたらなあ。我が子が小さい時にやってあげていたらなあ」と強く思った。
- ・発達通級担当である。走りに苦手意識の子どもが多い。そのような子どもに、体幹を鍛えること。まずは歩くことからトレーニングするとよいと気付くことができた。

7月

科学教育部



夏の季語の「カブトムシ」の
折り紙

(センター事務員 久保田さん作)

【8、9月の研修案内】

1	単元別研修会 【小3 音を調べよう】	8月 8日(金) 15:40~16:40	音を可視化する方法の紹介や、 音の単元で活用できるものづく りについて紹介し、実際にその 場で作成していただきます。
2	単元別研修会 【中1 光の性質】	9月 5日(金) 15:40~16:40	光の屈折や鏡の見え方のポイント、 ICT の活用方法を紹介し、 光の単元で活用できる発展課題 についても体験していただきます。
3	第3回理科主任会	9月12日(金) 15:40~16:40 【持ち物】 ①児童生徒の要旨 各200部 ②指サック	最初に科学研究発表会の最終打 ち合わせをした後、科学研究発 表会の要旨の製本作業を行います。
4	単元別研修会 【小6 大地のつくりと 変化】	9月19日(金) 15:40~16:40	簡易鉱物顕微鏡で鉱物を観察す る方法や、地学単元で活用でき る見附市の観察地点について紹 介します。

※研修会の申込については終了していますが、
新たな参加希望がありましたら、見附市教
育センター科学教育部まで電話またはメー
ルで申し込みをしてください。

教育センター 科学教育部 担当: 佐藤・横田
TEL・FAX 62-2343
E-mail mrissen@mitsuke-ngt.ed.jp
C4th の個人連絡
「教育委員会 教育センター」

科学の公園

単元別研修会 小3 「こん虫を調べよう」

6月27日(金)に実施した単元別研修会 小3「こん虫を調べよう」では、昆虫の分類についてや、校庭にいる身近な昆虫の豆知識をクイズ形式で紹介しました。その後、アリやハエなどの小さい昆虫を観察し、レジン標本を作成しました。参加者からは「あっという間に時間が過ぎてしまいました。もっとアリの話も聞きたかったです。初めて知ることが多く、楽しかったです。学校に戻って子どもたちにすぐに話をしたいと思いました。ありがとうございました。」という感想を頂きました。



アリのレジン標本を作製する参加者

単元別研修会 小6 「てこのしくみとはたらき」

7月11日(金)に実施した単元別研修会 小6「てこのしくみとはたらき」では、てこの規則性に気づくための単元の流れや実験のポイントを確認し、この単元での困難さを共有し、解決策を話し合いました。参加者からは「大型てこからてこ実験器への学習へ移る時の指導のポイントがよく分かった。」「一人一つの教材、てこの法則性理解への手立てを理解できました。」「その手があったか！"いつも新たなアイデアをいただき、本当に有意義な研修だと感じています。」という感想を頂きました。



大型てこのポイントについて確認する参加者

理科室・理科準備室の薬品管理支援訪問

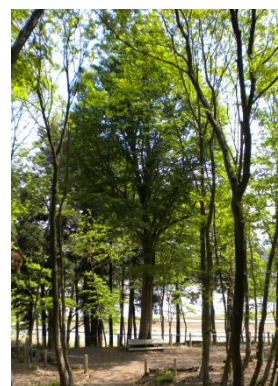
7月中に見附市内の小・中学校で実施した理科室・理科準備室の薬品管理の支援訪問では、理科を担当する先生方と理科の授業での安全管理のポイントを確認し、理科室・理科準備室の薬品管理状況を一緒に確認しました。実施した学校の理科担当の先生方からは「一緒に確認していただき、薬品や道具の保管の仕方に自信をもつことができました。」という感想を頂きました。



理科室の薬品を点検している様子

見附市のツキノワグマとブナ王

見附市では7月2日以降、クマの目撃が多発しています。本州に生息するツキノワグマと考えられ（北海道のみヒグマが生息）、発情期にオスが争いに敗れて人里に出たり、オスから子グマを守るために母グマと子グマが人里に逃げてくることが知られています。また、クマの主な食糧源であるミズナラなどのドングリやブナの実が不作の年には、食料を求めて人里に下り、被害が増加します。ミズナラやブナは冷温帯の代表的な落葉広葉樹で、見附市のような標高の低い地域では、猛暑の影響で弱ったり、実ができにくくなることが知られています。見附市の「杉沢の森」には見附第二小学校の児童が名付けた「ブナ王」と呼ばれる高さ約20mのブナがあります。見附市のブナ林も様々な視点から、保護していく必要があると感じます。



ブナ王（写真は見附市 HP より引用）